Produced：福山 佑輝 supported by full._.bloom

音楽ディレクターである福山氏が、京都学生人口約30万人の中から「京都版モーニング娘。」を作り上げる事を目指した本企画。既に16号を連載し、関西圏では本コーナーにスカウティングされることが、デビューへの登竜門とされていると評判。

Vol.17 アイドル発掘 リサーチんぐ娘。

今回のリサ娘。衣里佳ちゃんはかつてない程の元気っ娘。街で見かけるギャル系女子高生に比べ、さらによく喋る、喋る！辛うじて質問を投げかけてた取材中は、いつしか彼女のワンマンショーに急展開。女子高生の対応には慣れた取材陣も、終始圧倒されっぱなし…。例えるならば、衣里佳ちゃんは「暴走特急」ってところか!?

ハナシは途切れ知らず ネタは底知れず（笑）

福山：開口一番「こんにちはぁ～！」で始まり、最後の「お疲れ様でしたぁ～！」まで終始ハイテンション。いやいやホント底抜けに明るいというか、威勢がいいというか…。衣里佳ちゃん、女子高生パワー炸裂！って感じでしたよね。

編集長：ホンマに（笑）あのテンションは女子高生にしかないもんやな。

fb：うんうん。ワタシも17歳の頃はそうでしたよ。やっぱり「怖いもの知らず」っていう部分があるんでしょうね。

編集長：でもまぁ、衣里佳ちゃんは挨拶はキッチリできるしエエ娘やん。会話にしても、何か一つ話をふると倍になって返ってきて、しかもリアクションがデカイ（笑）

福山：さらにずっとニコニコしてたでしょ？まさに天真爛漫。

fb：そんな衣里佳ちゃんですが、「芸能界にかなり興味ある」と言ってましたね。

編集長：憧れのアーティストが「浜崎あゆみ」に「倖田來未」ってね。これまでオーディションに来た娘もそうやったけど、やっぱり今は女子高生＝avex系がアタリマエなんかなぁ…。

福山：やっぱりそうですね。ほとんどの娘が好きって。でもそれは音楽的というより、ヴィジュアル面での影響が強いっていう一面もありますけど（笑）

編集長：そやな～。もっといろいろ音楽を聞き込んで一回りして、そこに辿り着くならええんやけどな。音楽だけでも情報が溢しすぎて、カテゴライズしきれへんのちゃうか？

fb：結果、ヒットチャートに登場するトコロからピックアップしてしまうんでしょうね…。

編集長：まぁ、高校生にそこまで考えろとは言わへんけどな（笑）

秋田 衣里佳
あきた えりか

1985. 10.4生まれの17歳
身長162cm　B85.W58.H80　A型の天秤座
好きなブランドは「ALBAROSA」と言う衣里佳ちゃんは、ギャル系ショップのオーナーになることが夢だとか。自慢は「egg」に載ったコト。

「アイドル発掘☆リサーチんぐ娘。」では現在、うら若きアイドルの卵を大募集！　自薦・他薦は問いません、興味のある方はdtj@m21.or.jpまでどしどし写メールをお送り下さい。

古代ギリシャの息吹が溢れる館

玄関を入ってすぐには、古代遺跡から発掘された石像が並ぶ。「そのものの質感を間近に感じて欲しいから」と展示物の約半分はガラス越しではなく直接展示

下鴨の閑静な住宅街に突如現れる、ヨーロピアンな建物。それが美術館への入口。入館料は大人1000円、中・高校生500円、小学生300円

血のなせる技ゆえか？ ギリシャローマ大収集

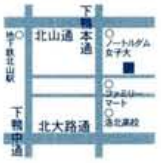
「ヨーロッパを旅して美術館を廻るたびに『あぁ素敵だなぁ』」と思うのは常人なり。感嘆をあげた古代ギリシャの美術品を収集してしまったのが、この美術館を運営する蜷川明・岸子夫妻だ。紀元前の品とは思えない緻密で華麗な文様に惹かれ…からスタートし、次第に時代考証を踏まえてコレクション。ついには日本で最大規模の収集に。'97年には自宅の隣に4階建ての美術館を建ててしまったという情熱は一体どこから？　祖先を紐解けば、当主の祖父は正倉院の宝物殿の扉を開き、文化財保存の祖でもある蜷川式胤（のりたね）。脈々と受け継がれる家系ゆえと、大いに納得。

展示スペースは1階～3階。1・2階は立体的な構造ゆえ、展示品を上からもじっくり眺められる。デッサン会や講演会などのイベントも度々開催される

4階は休憩室&カフェスペース。テラスからは五山のうち大文字・妙・法・舟形を、間近に見ることができる

紀元前500年頃の壺は、黒絵の様式。蜷川明・岸子夫妻をコレクターへと駆り立てた要因である、古代の繊細な絵柄が美しい

●京都ギリシャローマ美術館
■京都市左京区下鴨北園町1-72
☎075-791-3561
10:00～17:00
月休（祝日の場合は翌日休、冬期1・2月休）



おちょぼ It's a world ver.

一枚入魂！の歴史を辿る絵馬ギャラリー

アカデミック・シティ京都に潜む偉大なるミニマム博物館を探訪した京都チャンネル「It's Small World」を、京都CF！が徹底検証する知的教養コーナー！

文化元年（1704年）に奉納された「意馬心猿図」は、かの円山応挙の兄弟弟子だった西村楠亭による作。意のままにならない人間の心を表す寓意画である

鼻が欠けているものの、天狗の雄雄しい表情がはっきりとわかる江戸中期に奉納された立体的な大絵馬

今昔共通の神頼み精神は 遡るほどダイナミックだ！

安井金比羅宮の境内に建つ「金比羅絵馬館」は、京都で有数の絵馬収蔵神社だったことや、先代宮司が美術品に造詣が深かったことなどから昭和51年にオープンした絵馬の展示館。1階には江戸中期～明治中期の大絵馬約100点、2階には現代の作家や著名人が寄せた小絵馬約400点が公開されている。特に商家の広告的役割や絵師の作品的要素を含んだ大絵馬は、当時の人々の信仰深さや匠の技が感じられ、一枚の絵画を見ているような感覚。単なる願掛けアイテムと高を括っていたらカルチャーショックは免れない。

手塚治虫氏や水木しげる氏という大物漫画家や、テレビでもお馴染みの芸能人が寄せた小絵馬が所狭しと並ぶ2階展示室

拝観料は大人500円、高校生以下400円、20名以上は団体割引。本殿に奉納できる祈願絵馬は300円～

●金比羅絵馬館
こんぴらえまかん
■京都市東山区東大路通松原上ル井天町70
☎075-561-5127
10:00～16:00／月休（祝日の場合、翌日休館）